認定特定非営利活動法人 日本がん登録協議会発行

No.53
September. 2022

Renewal !! 今号よりニューズレターは誌面をリニューアルしました

NEWS LETTER

日本がん登録協議会理事 三上春夫先生 追悼特別号

p 01-03
三上春夫先生 追悼特集

p 04-08
学術集会開催報告

p 09-10
実務でGO/J-CIP委員会報告

p 12-13
関連学会一覧 / 学術集会案内

p 15-16
編集後記, 事務局便り / 賛助会員一覧

三上春夫先生を偲んで

猿木 信裕

―KapWeb 開発物語―

2022年3月7日、千葉県がんセンター研究所予防疫学研究部長三上春夫先生（JACR理事）がご逝去されました。三上先生は2013年1月、脳出血で倒れましたが、その後の懸命なリハビリにより左半身に麻痺は残ったものの、2015年9月に職場復帰されました。全国がんセンター協議会（全がん協）研究班、日本多施設共同コホート研究（J-MICC研究）等、研究活動に精力的に取り組み、JACRの学術集会にも車椅子で参加されていました。三上先生はJACR法人設立時の監事として、その後理事として、JACRを支えてくださいました。三上先生のがん登録や疫学研究へのご貢献に敬意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

→新潟五島今坂温泉にて（2010年）
左から、故三上先生、岡本先生、猪木理事長、丸山先生
（当時、新潟がんセンター麻酔科部長）

三上先生と私の出会いは、私が2000年に厚労省がん研究助成金による全がん協の院内がん登録研究班（岡本班：2000年4月～2004年3月）に群馬県立がんセンターから研究協力者として参加したことが始まりです。三上先生は2000年6月の班会議で「生存率測定プログラムKAP（WIN版）の紹介」という報告をなさいました。このKAP（MS-DOS版）は千葉県がんセンター研究局疫学部長の故村田紀（もとい）先生が開発し、コホート生命表を読み込んで相対生存率を算定する希少なソフトとして、疫学研究者に配布されました。その後、三上先生によりWindows対応のKAPWINとして完成し、現在はWEB上で生存率を算定してグラフ表示をするKapWebとして公開されています。キャッシュ機能を用いることにより、表示スピードも早くなりました。

→第29次南極観測隊
（後左から二人目が故三上先生）

岡本班の後継として、猿木班（2004年4月～2008年3月）、三上班（2008年4月～2012年3月）と続きます。2011年9月に母校の千葉大学けやき会館で、地域がん登録全国協議会第20回学術集会（三上春夫会長）が「がん登録のマイルストーン」をテーマに開催されました。↗

認定特定非営利活動法人
日本がん登録協議会
JACR Japanese Association of Cancer Registries

↘三上先生は「がん登録の行く末ー社会に向けて」と題した会長講演を行い、Webを介した罹患集計と生存率集計（KapWeb構想）のお話をなさいました。研究班として収集したこれまでのデータを社会に役立てたいという三上先生の強い思いから、やがてこの構想は実現することになります。

2012年4月からは西本班（三上小班）としての活動が続き、全がん協加盟施設の協力により収集した院内がん登録の貴重なデータは、2012年10月22日にKapWebとして初公開されました。三上先生は10月23日0時からのNHK NEWS WEB 24の生放送番組に出演し、KapWebの開発にかけた思いを語っています。その3ヶ月後、三上先生は病に倒れてしまいましたが、千葉県がんセンター研究所の皆様の大きなサポートもあり、KapWebに英語版やアンケート機能を追加し、サバイバー生存率や10年生存率を算定するまでに育てあげました。

国立がん研究センターでの班会議が終わると、三上先生と私は帰りに築地のお寿司屋さんに寄ることもありました。三上先生は第29次南極地域観測隊の越冬隊に医師として参加し、貴重な経験をされました。帰国↗↘後は南極地域観測隊OB会にも積極的に参加するなど、仲間との繋がりを大事にする人でした。少量のビールを飲み、お寿司を食べながら、南極の思い出話、がん登録や疫学研究への思い、KAPWINやKapWebの開発への思いを熱く語ってくれました。KapWebの将来について夢を語りながら、少し涙ぐむ時もありました。おそらく我が子のようなKapWebの実現が嬉しかったのではないかと思います。

残念ながら三上先生はお亡くなりになりましたが、KapWebという財産を残してくれました。私たちは三上先生の意志を引き継ぎ、これからもがん登録や疫学研究の発展に努力していきたいと思います。三上先生、長い間お疲れ様でした。ゆっくりお休みください。

猿木　信裕
Nobuhiro Saruki

群馬県衛生環境研究所所長
日本がん登録協議会理事長

故三上先生を偲ぶ

本年（2022年）の3月に本協議会の理事であり千葉県がんセンターの予防疫学研究部長で在られた三上春夫先生がご逝去されました。コロナ禍であったことから葬儀は家族葬で行われ、友人、知人のお別れが出来ませんでした。そのため有志と図りまして、7月17日に千葉の地で「偲ぶ会」を開催し、永遠の別れをいたしたところです。

三上先生と最初にお会いしたのは、1997年千葉市にて千葉県がんセンター疫学研究部長で在られた村田紀先生（故人）が主催された第7回地域がん登録全国協議会学術集会（主題：がん登録とコンピュータ）でした。会場の設置や運営、パソコンのハンドリングなど多彩な能力を発揮されていました。それ以前には第29次の南極観測隊に医師として参加され、帰国後には千葉県救急医療センターでお仕事をされていました。学術集会の翌年、千葉県がんセンター疫学部の村田先生のもとに職場を移され、がんの疫学研究とがん登録の実務と研究へ従事されることになりました。がん登録に関する三上先生のご業績は猿木理事長から報告がなされると思いますし、がんのコホート研究に関しては田中前理事長からご報告がなされると思います。
私からはそれ以外の三上先生の研究への指向について少しだけお話して、追悼文とさせていただこうと思います。実は故村田紀先生の追悼文も寄稿（JACR、NEWSLETTER No.19）させていただき、二代に亘ってのお見送りとなってしまいました。合掌。

三上先生のご出身は北津軽郡板柳町で、弘前高校から千葉大の医学部へ進学されています。大学同期の先生↗↘に伺いますと3月の早生まれで、同級生の中で最も若かったそうです。卒業後は公衆衛生学の大学院に進まれ、へき地医療や極地医療に興味を持たれ、第29次の南極観測隊へ参加することになられたようです。千葉県がんセンターの上司で有られた故村田先生は「環境とがん」がご専門で、その影響もあってか「環境汚染とがん」についての研究に並々ならぬ意識を注いでおられました。その成果は「交通量と肺がん」の研究に代表されると思います。この研究は肺がん罹患者と死亡者の居住地を丹念に地図上にプロットし、最も交通量の多い幹線道路からの距離による大気汚染濃度と肺がん罹患のリスクを算出した研究です。この成果は日本がん登録協議会（JACR）のホームページの「がん登録が役立った例」に掲載されていますのでご覧ください。三上先生は、この研究を開始されたころからがん対策における「がん登録」データの重要性を深く認識され、がん登録の精度向上や法制化へ向けた活動にもご尽力されました。私は神奈川県立がんセンターにおいて「がん予防の研究」や「地域がん登録の運用と活用に関する研究」に従事していたことから、千葉県がん登録と同じ悩みや限界を感じておりました。それは、千葉都民、神奈川都民と称されるように巨大な経済圏である東京に生活や医療などを依存している県民の方々が多数おられ、両県の地域がん登録では東京の医療機関にがん罹患の届け出依頼が困難で、がん罹患により死亡された方のみを死亡票から把握することしか出来ないという共通した事情でした（当時、東京、埼玉、茨城、山梨には地域がん↗

↘登録はありませんでした)。いかに解決すべきかが両県の二人の共通の検討事項でした。東京都の衛生部へ何度も二人で足を運んだこともあり、東京都を含めた関東がん登録（仮称）の設立へ向けた活動も行ったりしましたが、成果に繋がることはありませんでした。結局、がん登録の法制化による全国がん登録が立ち上げられ、今日に至って登録の精度は解決されています。その後の三上先生は 5 年相対生存率の考えを一般の方へ周知することを使命とされ、最終的に KapWeb の開発に繋がっていきました。

三上先生のアフター５を思い起こすと、必ず牛タンがメインディッシュでした。そして、その折の話題↗↘は「利根川流域の高率ながん罹患の原因究明」を一緒に研究しようという内容でした。今思えば、この研究に協力して実施していれば、と悔やまれてなりません。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌（2022/7/24 記）

岡本直幸
Naoyuki Okamoto
日本がん登録協議会顧問

三上春夫先生を偲んで

去る 2022 年 3 月 7 日、三上春夫先生は帰らぬ人となりました。謹んで哀悼の意を表します。

三上先生は 1990 年代の終わりに千葉県がんセンター研究所の予防疫学研究部の村田紀部長の後任として着任されました。同部は千葉県がん登録事業の運営とこれを用いたがんの記述疫学研究を研究テーマの１つとしておられた関係で、当時、JACR の 2 代目理事長の大島明大阪府立成人病センター調査部長が班長をされていた厚労省がん研究助成金「地域がん登録資料の精度向上と活用」班で、ご一緒することになりました。1990 年代の後半から 2000 年代の前半は、個人情報の保護や自己情報をコントロールする権利意識の観点から、患者さんから同意を得ないで機微な情報を自治体が取得、登録する事業に対するメディアや社会の目が大変厳しく、事業やこれを活用した研究の継続がとても苦しい時代でした。ですので、当時の活動を共にしました三上先生とは、戦友のような感覚を抱いております。

三上先生は、ややもすると単調になりがちながんの記述疫学研究に、新しい発想と実用的な視点を取り入れ、2000 年代の初めにはまだ珍しかった地理疫学をがん登録資料の分析に導入されました。肺がん患者の住所地から幹線道路までの距離と、肺がん罹患率との関係性の分析から、肺がん罹患に与える大気汚染のインパクトを明らかにする試みです。これはその後、国立がん研究センターの片野田耕太先生らが、「環境庁 3 府県コホート」を使って大気汚染と肺がんとの関係を明らかにした国内研究に、結果のタイミングとしては先んじていたと言えます。

また、2004 年度から始まった JACR の現理事長である猿木信裕先生が班長を務められた厚労省がん研究助成金「院内がん登録」研究班は、前年度までの岡本直幸班長（JACR 3 代目理事長）からの流れで、全がん協加盟施設のがんの 5 年相対生存率の公表を活動目標に設定しました。その目的は、各施設が各県のがん治療の「お山の大将」に終わることなく、生存率を相対化して日常診療の改善等にフィードバックできるようにすること、および、がん患者が病院を選ぶための客観的情報を得られるようにするという、当時としては画期的な試みでした。↗↘私はこの研究班では、施設間での生存率の比較妥当性が高まるように、対象症例の条件、予後把握方法と把握率、層別化因子、最小症例数、作表法などの公表に向けたガイドラインの作成を担当しましたが、その素案を検討する班会議（台風が来た 2004 年 10 月の横浜のホテルで）三上先生らとともに熱い議論を交わした記憶が蘇ります。そして、この事業が軌道に乗りました後は、皆様もご存じの通り、三上先生が開発されました「KapWeb」という解析ソフトにより、指定した条件の生存率が、オンライン上で全がん協の生存率算定用データを用いて自動算出、閲覧できるようになりました。
https://kapweb.chiba-cancer-registry.org/notice

三上先生は、がんのコーホート研究にも精力的に取り組まれました。2005 年から始まった、日本多施設コーホート研究(J-MICC研究)に千葉サイトとして参画され、１万人以上の千葉県民のリクルートに成功されました。私は 2010 年度から 6 年間主任研究者をしました関係で、三上先生が参加者をリクルートする現場を見せていただく機会がありました。住民の方に大変分かりやすく、上手に研究参加を呼び掛けておられ、参加率が他のサイトに比べて高い理由がよく分かったことを、大変懐かしく記憶しております。

三上先生が青森のご実家で倒れられた時や、その後長期間治療で休まれた間や復帰後も、千葉県がんセンター研究所の永瀬浩喜所長（当時）に、三上先生の J-MICC 活動や JACR の理事としての活動を支えてくださいましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。残された私たちがん登録・公衆衛生分野の関係者は、三上先生の分まで世の中が少しでも明るくなるよう、努めていこうと思います。

田中英夫
Hideo Tanaka
日本がん登録協議会顧問

第31回 JACR
学術集会開催報告

第31回学術集会大会長
Tomonobu Koizumi
小泉知展
信州大学医学部附属病院

今回第31回日本がん登録協議会学術集会を長野県で、6月2～4日にかけてハイブリット形式で開催させていただきました。新型コロナ感染の終息は困難との判断に基づき、また過去2回の学術集会をWEB開催された第29回大会長大木いずみ先生や、第30回大会長田渕健先生などの助言を頂き準備させていただきました。また、プログラムや進行を支えてくれました理事の先生方や専門委員の皆様に多大なるご協力を頂き、感謝申し上げます。

開催形式が、直前に対面からハイブリット形式に変更になったにも関わらず、事前参加者数は324名、一般口演10題、ポスター発表38題の登録を頂きました。シンポジウムを含めて口演者には現地で発表・配信していただき、ポスター発表は、WEB上で紙面発表形式とさせていただき、さらに6月26日までオンデマンド配信も行いました。配信場所を信州大学医学部附属病院とし、即席の会場設定でしたが、業者さんのスピーディーな設定もあり“ある程度”の臨場感ある会場になったと自負しています。現地参加の理事の先生や演者にしてみますと松本駅からアクセスが少し悪くご迷惑をおかけしたかと思いますが、ご容赦ください。

さて、今回の学術集会のテーマを「利活用を目指すがん登録」とさせていただきました。シンポジウムでは、全国および院内がん登録の立場から利活用の実際と課題を発表していただき、また同日のセッションでは、各演者から個人情報保護と利活用のバランスをどうやってとるのかが重要である趣旨の発表がありました。私自身も、利活用といっても、研究者、自治体行政、または市町村単位への情報提供の内容も多彩で、利用目的も様々であって、一概に論じることは難しいと思い知らされました。一方で、実務者の方も、登録情報を収集・解析することが有効な情報になり、利活用につながることを考える機会になったのではと思います。実際、ポスター発表でも、実務者の“学術的な”発表内容が増えてきたように感じています。こういった活動が利活用への拡大につながり、がん登録は何のためのものかを我々自身が感じ取っていく必要があると思いました。J－CIP企画「社会に役立てるがん登録データ」ではJ－CIPの発足時の理念であるいろいろな立場からのがん登録データの利活用を通じた社会還元についてでした。

なお、学術委員の選出による最優秀口演賞には、O-1-1演題の杉山裕美さん、最優秀ポスター賞にはR-1-6演題の原加奈子さんが選出されました。がん登録関係者の益々の学術活動に期待したいです。

教育研修委員会企画の「がん登録実務者情報交換会　実務でGO」も今回継続開催できました。今いろいろな学会で、開催形式をめぐって意見があります。「リモートでも参加できる」「後からでも発表内容が閲覧できる」メリットと「開催費用の負担増」のデメリットも兼ね備えていますが、やはり「対面であの先生の話を聞けた」「対面で話し合えた」など本来あるべき顔合わせができる学術集会も意義があります。次回の学術集会は、青森県での開催です。青森大会の成功を心より祈念しております。

「RARECAREnet list に基づく希少がん・一般がん罹患率の都道府県比較」

最優秀口演賞

Hiromi Sugiyama
杉山裕美

（公益財団法人）放射線影響研究所

日本がん登録協議会第 31 回学術集会で、最優秀口演賞を受賞いたしました。このような賞を授与していただき、学術集会関係者の皆様、学術委員会の先生方に感謝申し上げます。RARECAREnet list は、欧州連合（EU）における希少がん情報ネットワークプロジェクトが提供している list で、国際疾病分類第 3 版の局在と形態のコードを用いて、一般がんも希少がんも、すべてのがんを病理学的にそして臨床実態を考慮して分類する list です。本研究では、2016～2018 年に浸潤がんと診断され全国がん登録に登録された約 300 万件の症例を、RARECAREnet list に基づき 68 種類の Tier-1 のがん種に分類し、年齢調整罹患率を都道府県別に比較しました。一般がん（例えば胃、大腸、肺、肝、乳房の上皮性腫瘍など）は、罹患率の地域差が大きい傾向が観察されました（図 1）。一般がんでは、生活習慣、生殖要因、環境、感染（ヘリコバクターピロリやヒトパピローマウイルス）、がん検診の普及により影響を受けやすいことから、地域による影響が大きくなると考えられました。一方で、希少がんの罹患率は、中皮腫では大阪と兵庫、カポジ肉腫では東京と沖縄、リンパ系腫瘍では九州地方で高い傾向が見られましたが、その他の多くの希少がんでは地域による差は見られませんでした。このように、住民ベースがん登録の質的・量的精度が向上したことで、希少がんを含めて様々ながんの地域差を見ることが可能になりました。本研究の成果が、これまで着目されていなかったがんについても、罹患率の地域による違いを観察し、そのリスク要因を検討していく一助になれば幸いです。

最後になりましたが、国立がん研究センターおよび都道府県のがん登録業務に関わる全ての皆様、日本がん登録協議会の皆様に感謝申し上げます。

本研究は、厚生労働省科学研究費がん政策研究事業「国際比較可能ながん登録データの精度管理および他の統計を併用したがん政策への効果的活用研究」班の活動です。

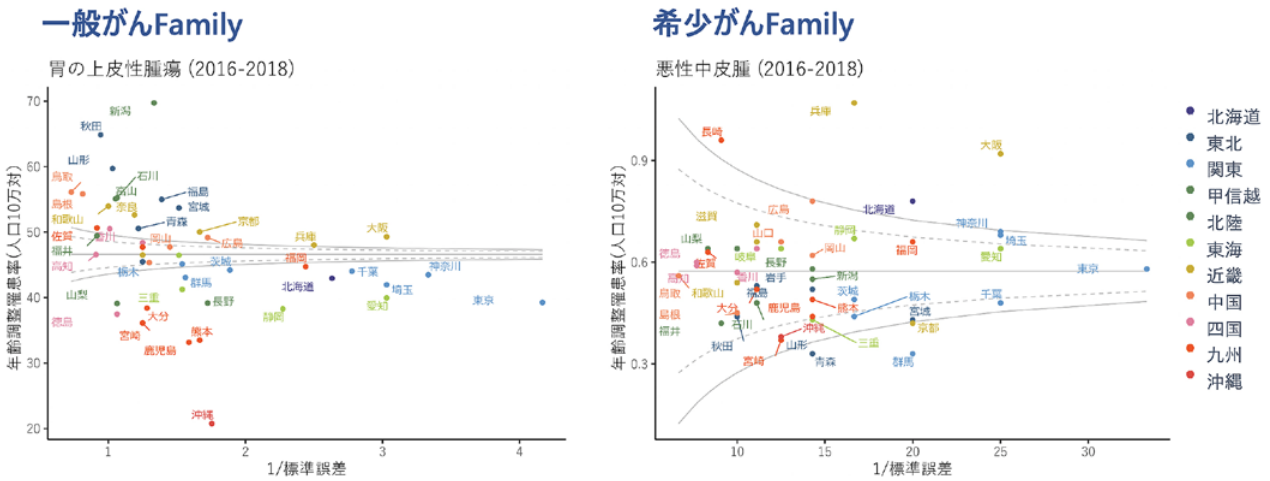


図1. 都道府県別がん年齢調整罹患率　全国がん登録 (2016-2018)

中央線；47都道府県の平均年齢調整罹患率、実線：99.8%信頼限界、破線：95%信頼限界

大阪府における悪性中皮腫

最優秀ポスター賞

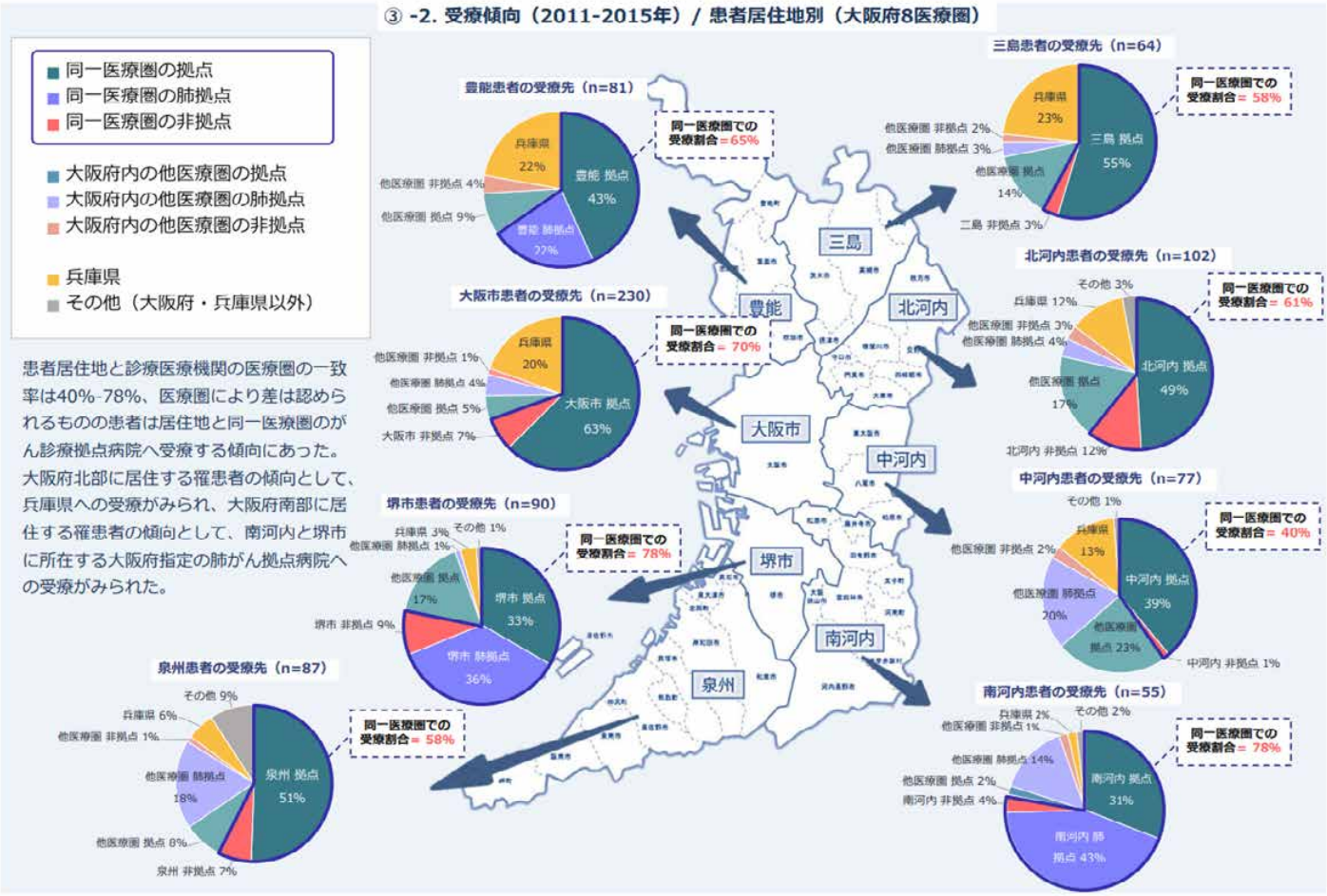
Kanako Hara
原 加奈子
大阪国際がんセンター

この度の日本がん登録協議会第31回学術集会において、最優秀ポスター賞という栄誉ある賞を頂戴しました。この場をお借りして、ご指導いただいた諸先生方、審査いただいた学術委員会委員の皆様と大会長の小泉先生に心より感謝申し上げます。

悪性中皮腫は希少がんに分類され、発症原因としてアスベスト曝露との関連性が報告されています。また、2019年の人口動態統計によると、中皮腫による全国の死亡数は1,466件、そのうち大阪府の死亡数は148件と最も多いとされています。そこで、大阪府がん登録データを用いて、「大阪府における悪性中皮腫」について調査しました。1976～2015年に診断された悪性中皮腫は2,998件、罹患数は近年増加傾向にあり、2011～15年罹患873例における大阪府人口10万人当たりの年齢調整罹患率（直接法）は0.956、男女比率は1：0.3、罹患年齢は60～70代に多いという結果でした。2010～14年診断710例の5年純生存率（Pohar-Perme）は8.1%であり、患者の予後は未だ不良でありました。

また、2011～15年罹患（DCOを除く）786例の約8割が大阪府での受療（大阪府のうち91%が拠点病院）、約2割が他府県への受療（他府県のうち89%が兵庫県）でした。患者居住地別（大阪府8二次医療圏）にみると、医療圏による差はあるものの（中河内の40%から堺市・南河内の78%）、患者は居住地と同一医療圏の拠点病院へ受療する傾向にありました。大阪府内・府外に因らず、アクセスしやすい拠点病院等の中から悪性中皮腫を扱える医療機関が選ばれている現状がみてとれました。

大阪府がん登録の歴史は長く今年で60周年を迎えます。歴史ある大阪府がん登録データを活用し、今後も府民や各種学会等へ向けて情報発信していけるよう精進してまいります。



COVID-19 感染拡大と大阪府の口腔がん初回治療患者数と初回治療時の状況の変化

優秀
ポスター賞

Shihoko Koyama
小山史穂子
大阪国際がんセンター

この度は、日本がん登録協議会第 31 回学術集会にて優秀ポスター賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。受賞した演題は COVID-19 流行前後の大阪府における口腔がん初回治療患者の状況について比較した研究になります。

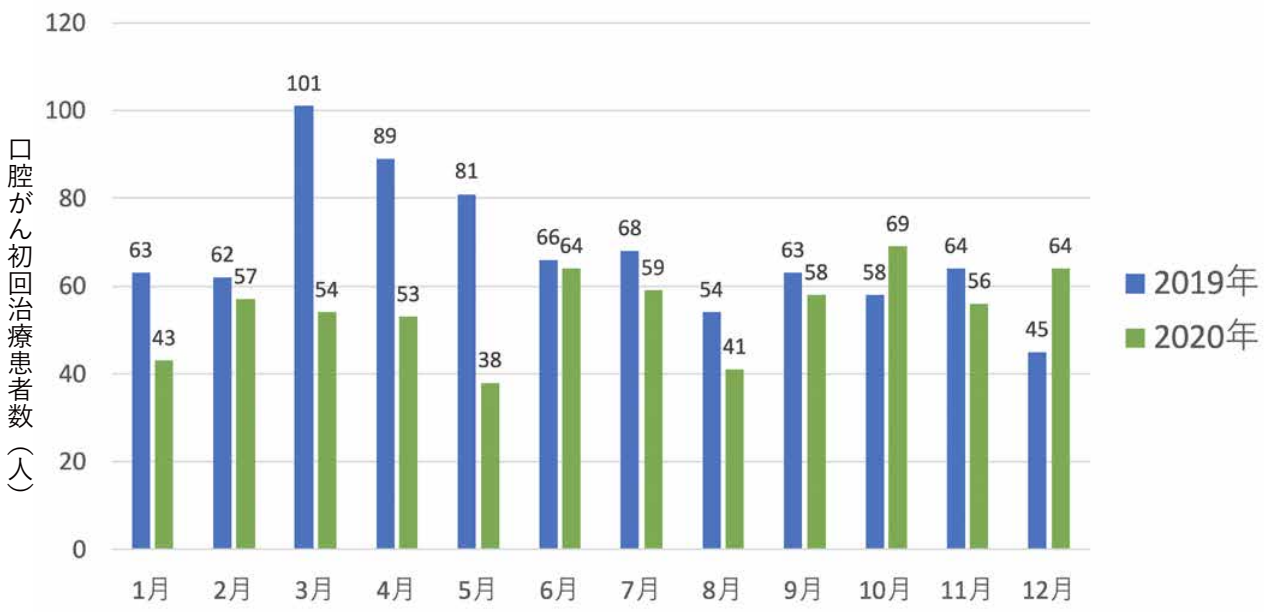
COVID-19 流行による影響は多方面で報告されておりますが、地域住民を対象に診療科別の受診控え意向について検討した自身の先行研究で、他科に比較して歯科の受診控え割合が高かったことから口腔がんの罹患について 2019 年と 2020 年の初回治療患者の状況を比較しました。

初回治療患者数について、2019 年が 814 件から 656 件と 19.4%減少し、特に第一波の 3～5 月は 2019 年が 271 件なのに対して、2020 年では 145 件と約半分になっていました（図）。これは、緊急事態宣言や外出自粛の影響ではないかと考えられます。

次に、年齢、性別、府外からの来院、詳細部位は両群間で有意な差がなく、診断～手術の日数のみ、2019 年が 31.26 日なのに対して、2020 年が 27.69 日と有意な減少が認められました。診断～手術の日数が減少したことについては、オランダの先行研究でも同様の結果を示しており、初回治療患者数が減少したことにより、COVID-19 の感染対策下であっても、スムーズに手術へと進めた可能性が示唆されました。

今回の受賞を励みとし、今後もがん登録データを活用した研究を継続し、研究成果を社会に還元していきたいと考えております。最後になりましたが、がん登録データ作成に携わるスタッフの皆様、ご指導いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

図．月別の口腔がん初回治療患者数



「がん登録担当者研修会」に参加して

Mami Saito
齊藤真美
北海道がんセンター

日本がん登録協議会第31回「がん登録担当者研修会」に参加しました。

研修会は、3 時間もの長丁場ではあったものの、あっという間に終了時間を迎え、大変学びの多い時間を過ごすことが出来ました。今年の研修会も、昨年に引き続き、オンラインでの開催となりましたが、現地開催と遜色ない研修会だったかと思います。

雑賀久美子先生（佐久総合病院）には、院内がん登録、全国がん登録の特性により、それぞれのがん登録でできること・できないことを教えていただきました。それぞれのがん登録のデータの特性を生かした活用をしなければならない、ということが理解できました。

伊藤秀美先生（愛知県がんセンター）には、データ活用事例や、解析ツールを教えていただきました。活用事例を見せていただき、正しくデータの登録が出来ていなければ、活用しても正しい結果につながらないため、データの精度管理の重要性を改めて実感しました。

西本寛先生（佐久総合病院）には、登録標準登録様式の歴史や、今後のがん登録について、教えていただきました。標準登録様式が現在の項目や、選択肢になった、経緯の説明を聞きながら、自分が、がん登録に携わってきた年月の長さを感じました。

最近では、登録する際、診療録から流れ作業のように、情報を見つけ出すだけになっていたけれども、これから先は、どのような項目が必要とされるのか、項目をどのように利用していくのかを、登録業務に当たっている私たち一人一人が、考えなければならないということに気づかされました。

データを活用して、結果をまとめたい、と考えていても、実務担当者だけでは、どのように集計し、どのように利用すべきかわからない状況でした。データ利活用は、とてもハードルが高く、なかなか手の出しにくいことのように考えていましたが、本研修会を受けたことで、データ活用のための糸口をつかむことができました。

このような研修会を企画していただきありがとうございました。

刊行物の販売について

JACRでは、『がん登録の手引き改訂第 6 版』を税込1000円にて販売しております。

ご購入をご希望の方は、下記 QR より注文票をダウンロード頂き FAX または メール添付にて JACR 事務局までお送りください。

販売中
本体 ¥1,000
（税込）

送料のご負担をお願いしております

- 3 冊まで / レターパックライトにて発送
- 4 冊～ 5 冊まで / レターパックプラスにて発送

http://www.jacr.info/publicication/tebiki/tebiki_ver6_order.pdf

実務でGo!
開催報告

2022
がん登録実務者
リモート情報交換会

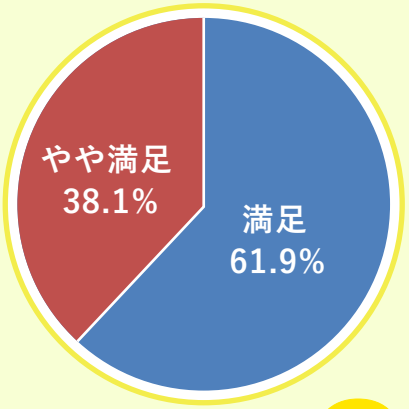
Yoshifumi Matsumoto
松本吉史
大阪医科薬科大学病院

日本がん登録協議会（JACR）第31回学術集会のプログラムの一環として、学術大会1日目（6月2日17：20～18：20）にJACR教育研修委員会企画『がん登録実務者情報交換会　実務でGo!』をオンラインで開催しました。プログラム内容は、1．テーマ別グループ別の情報交換会（以下、交換会）、2．グループ発表としました。当日、座長は私と島根大学医学部附属病院　中林愛恵さん。昨年もご協力をいただいたファシリテーター（17名）の方々と運営を行いました。テーマは参加者より事前に希望を聴き、テーマ別・院内がん登録／全国がん登録担当者別に分類し、9つのグループとしました。主なテーマは、希望が多かった①研修会、②報告書作成、③統計解析、④人材育成、⑤Case Finding、⑥集約から構成し、全国（23都道府県33施設）より40名が参加いただきました。交換会の時間が35分間でしたので、予定時間内に終わるだろうかと心配はありましたが、どのグループも順調で、テーマが決まっていたので話しやすかったと感想もあり、日頃の業務などの悩みも相談ができた雰囲気でした。グループ発表では、交流ができてよかったとの感想を多くいただきましたが、人材育成（研修会開催、施設内での教育、後任育成）や、施設内でアピール方法などが課題として上がっていました。また、もう少し話したかったとのご意見もあり、更なる考案が必要と感じました。

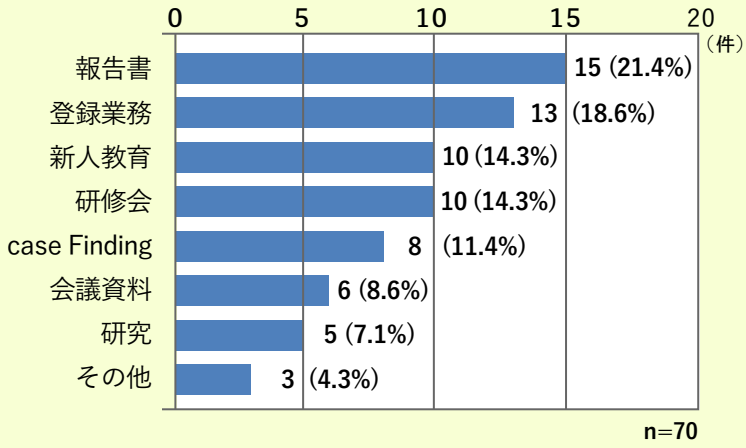
開催後のアンケートでは、9割が「満足」および、「今後も参加したい」とあり、テーマにおいては①報告書作成、②登録業務、③新人教育、④研修会の希望順の結果でした。今後も、誰もが気軽に参加ができ、業務の情報や悩みなどを共有できる交流の場として開催ができればと思います。

一部抜粋 アンケート結果

Q グループ別情報交換会はいかがでしたか？



Q テーマ毎に交流会をするとしたら、どのようなテーマがいいですか？（複数選択可）



J-CIP 委員会主催

―― 共催：がんネットワーク東京 / 後援：東京都 ――

がんネットワーク東京第 1 回公開講座 報告

知りたい！ 私たちのまちのがんデータ ―がん登録の役割―

J-CIP 委員
伊藤ゆり
片山佳代子
田渕健

東京都在住、在勤の有志の患者、医療関係者が集い、東京都のがん医療をよりよいものとし、「がんになっても安心して暮らせる東京」を目指した交流と学習の場であるがんネットワーク東京さんの第 1 回公開講座を J-CIP で主催させていただきました。

2022 年 7 月 31 日（日）午後 2 ～ 4 時に東京都のがん対策に関心や興味のある方を対象に、Zoom により開催しました。日曜の午後にもかかわらず、東京都内のみならず、全国から 140 名以上の方にご参加いただきました。

講座の前半は J-CIP 委員三名より、がん登録の基本的な知識やデータの見方を紹介し、実際の東京都がん登録のデータを見ていきました。片山佳代子氏からは「がんデータのなりたち（がん登録とは？）」として、がん登録の必要性や歴史、行政や研究分野でどのように役立っているのかについて紹介しました。伊藤からは「まちのがんデータの見方」として、年齢調整罹患率などがん登録を活用したがんの記述疫学研究の基礎的な考え方のお話をしました。田渕健氏からは「東京都のがんデータを見てみよう」として、東京都のがんデータについて、東京都ならではの特徴を紹介しました。

参加者の方々からは「がん登録は患者自身が登録するのか？」「多重がんの考え方」「死因はわかるのか？」などがん登録に関する具体的な質問が出されました。パネルディスカッションでは臨床、相談支援、患者会活動、などにかかわる様々な立場から、希少がんの情報をもっと知りたい、など全国がん登録の活用に対する期待が寄せられました。また、地域別のデータを活用できるということで、自治体のがん検診実施状況との関連などを見てはどうか、という具体的なアイディアも出されました。がん登録情報をわかりやすく、また地域に密着した形でのがん情報発信の重要性を改めて確認するディスカッションとなりました。公開講座の様子は、YouTube の J-CIP チャンネルにも公開されますので、ぜひご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UCSyoEaT2WyXi3FdQaxWfOaQ

JACR NEWS LETTER「モモコさんと紫本」の
LINE スタンプができました！！

全40種類：120円

ダウンロード方法

右のQRコードを読み取って、
LINEスタンプショップにアクセス頂くか
https://store.line.me/stickershop/product/9732275

LINEスタンプショップから
「モモコさんと紫本」と検索して下さい♪

LINEスタンプの収益について

LINEスタンプの収益は
日本がん登録協議会の
非営利事業の寄付金として
使用させて頂きます。

日本がん登録協議会とは？

がん登録によるがん罹患、死亡、生存率等の情報を提供するとともに、公開セミナーや学術セミナー、調査及び研究、がん登録に関与する人材の育成等を行い、地方公共団体の実施するがん登録事業の充実・発展を支援する事業を通して、国民の保健、医療、療養の増進と、わが国のがん対策の推進に寄与することを目的として活動しています。

JACR NEWS LETTERとは？

認定特定非営利活動法人日本がん登録協議会が年2回（7月・2月）に発行している刊行物です。

日本がん登録協議会が行ったイベント内容の
報告記事や、全国のがん登録室の情報など、
がん登録に関する知見を広める会報として
会員の皆様から好評を頂いています。
※バックナンバーは下記サイトに掲載されています。

http://www.jacr.info/publicication/publicication3.html

List of academic societies

2022 関連学会一覧

10月7日（金）～10月9日（日）

第81回日本公衆衛生学会総会

山梨県 / YCC県民文化ホール、
山梨県立図書館

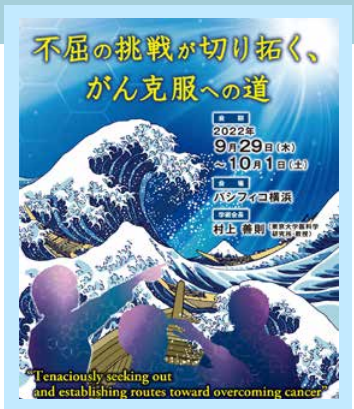
http://jsph81.umin.jp/

9月29日（木）～10月1日（土）

第81回日本癌学会

神奈川県 / パシフィコ横浜

https://site.convention.co.jp/jca2022/



10月20日（木）～22日（土）

第60回日本癌治療学会

兵庫県 / 神戸コンベンションセンター

https://congress.jsco.or.jp/jsco2022/

8-10 November 2022 / Registration will open this September 2022

2022 IACR Virtual Scientific Conference

国際がん登録協議会（IACR）/１１月８日（火）～１０日（木）

http://www.iacr.com.fr/index.php?option=com_content&view=article&id=111&Itemid=584

日本がん登録協議会

第32回 学術集会のご案内 in 青森

2023年6月8日（木）～10日（土）

「国際標準のがん登録を目指して」

第32回学術集会大会長

Hiroshi Saito
斎藤博
青森県立中央病院

2023年6月8日（木）～10日（土）の3日間、日本がん登録協議会第32回学術集会を青森県青森市で開催します。がん登録等の推進に関する法律が施行されて5年が経過し、個人情報保護法の改正やがん診療連携拠点病院からの届出方法の変更など、全国がん登録や院内がん登録の環境が大きく変化しています。そのような中で4年ぶりの実地開催を計画している第32回学術集会は、改めて参加者の皆さんにがん登録に関する有益な情報交換の場を提供できる機会になるものと確信しています。

今回の学術集会のテーマは「国際標準のがん登録を目指して」です。

その理由の一つは2021年から2022年にかけて国際がん研究機関（IARC）が『5大陸のがん罹患（CI5, Cancer Incidence on the Five Continents）』に掲載するデータを募集しており、日本のがん登録としては全国がん登録の開始後で初めての参加となったことです。なお、そこまでの過程は決して平坦なものではなく、個人情報の保護などについて厳しく審査された上で、最終的にデータの国際共同利用という位置づけで全国がん登録データを利用することが承認されるに至りました。また、欧州などではがん登録データをがん検診の精度管理に利用しています。

こうした海外でのがん検診精度管理の実施体制が日本でも目指されていましたが、平成28年度の青森県事業を皮切りにいくつかの都府県での取り組みが始まっており、今後、全国で体制を構築することが求められています。このように、日本のがん登録は国際標準を見据えて展開すべき段階にきていると考え、今回のテーマとしました。

プログラムは、8日午後のがん登録実務者研修会から始まり、2つのシンポジウムと2つの口演セッションを予定しています。また、広いポスター会場を確保しており、研究発表だけでなく、登録室の取り組みを報告する発表カテゴリーも準備します。これまで学術集会での発表経験がない方でも、この機会にご自身の登録室の活動をご報告ください。

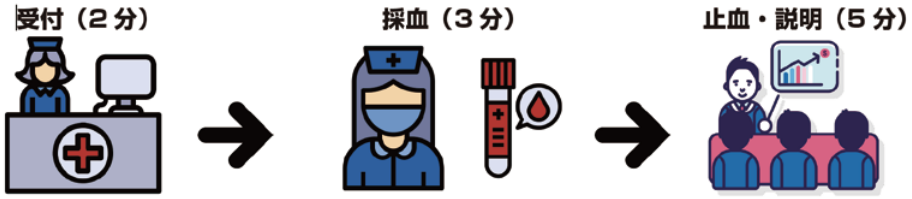
6月初旬の青森市は穏やかな天候で、学術集会の開催中は心地よく過ごしていただけると思います。会場から少し足を延ばすと、酸ヶ湯温泉や弘前城、竜飛岬などの全国的にも有名な観光地が目白押しです。また、青森県の豊かな自然の恵みである鮮魚や果物なども存分に味わうことができます。ぜひ、第32回学術集会に奮ってご参加ください。

Metallo-balance

がんリスクスクリーニング検査

メタロ・バランス検査を導入しませんか？

メタロ・バランス検査（MB検査）は、株式会社レナテックが運営する血液中の微量元素の濃度バランスを解析することにより、がんが発症している可能性（がんリスク）を判別するまったく新しいがんリスクスクリーニング検査です。



1人わずか10分
程度の滞在時間でOK!

＼クリニック・病院への導入はMACサービスで楽々簡単／

メタロ・バランス オリジナルキャラクター
「メタローナちゃん」

MB検査で罹患リスクを測定（税込16,500円）

男性 6がん

前立腺・大腸・胃・肺・すい臓・肝臓・乳・子宮頸・子宮体・卵巣

女性 9がん

集客・検査説明・予約・検査結果送付・集金・顧客管理
全て弊社が代行、クリニック・病院は採血のみ！

検査導入で初診・来院者増加効果⬆

メタロ・バランス検査の普及で、がんの早期発見・早期治療を！
レナテックは、ご協力いただける提携クリニックを募集中です。
メタロ・バランス検査は、MACサービスで簡単楽々導入、受診者募集・説明・予約受付などすべてレナテックで代行いたしますので、クリニックでは6mLの採血をするだけです。自由診療で地域住民の予防・健康作りに貢献できます。あわせて、初診・来院者増加効果も！

メタローナちゃんの兄「メタロくん」

MB検査導入については専用サイトをご覧ください▶

https://mb.renatech.co.jp

お気軽にお問合せください

Renatech レナテック

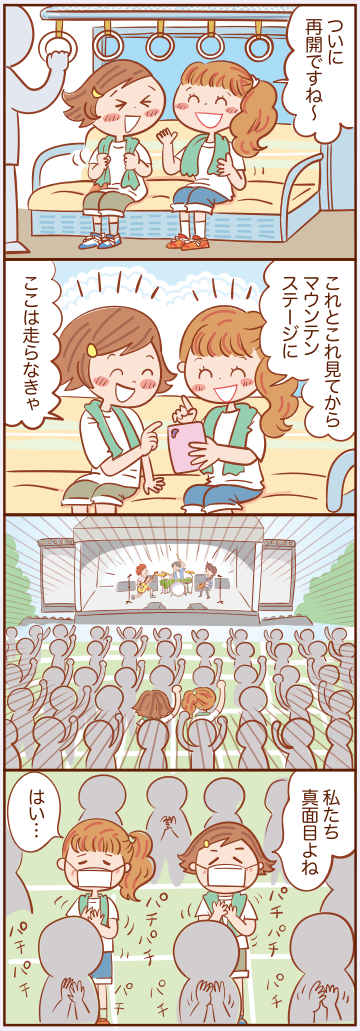
0120-785-602

☎0463-74-6129　https://gankensa.jp
神奈川県伊勢原市高森4-19-15　営／月～金 9:00～17:30（土・日・祝休み）

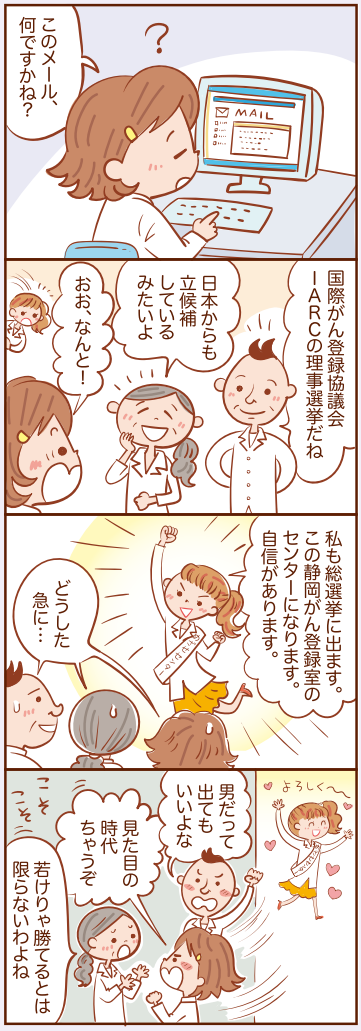
モモコさんと紫本

画：いのうえ つぐみ

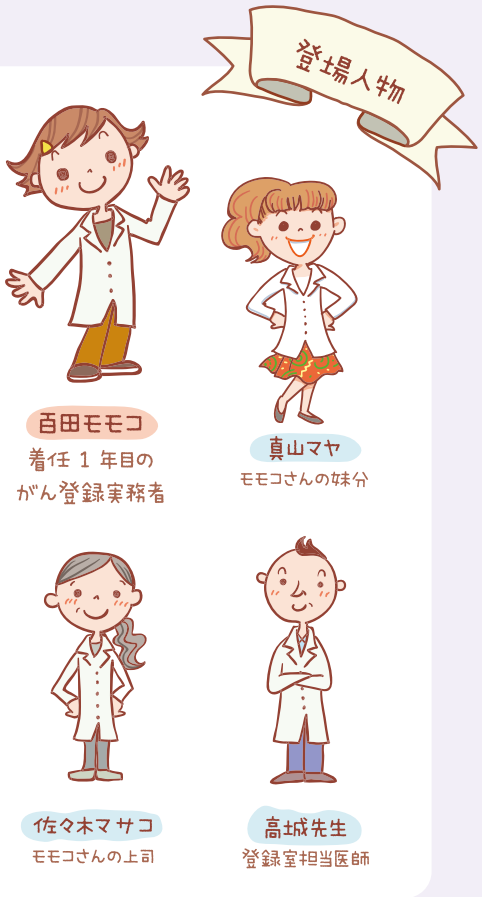
第41話 フェス編



第42話 選挙編



登場人物



百田モモコ
着任1年目のがん登録実務者

真山マヤ
モモコさんの妹分

佐々木マサコ
モモコさんの上司

高城先生
登録室担当医師

事務局便り

認定特定非営利活動法人
日本がん登録協議会

事務局：岡田希栄

当協議会理事の三上春夫先生が、2022年3月7日に逝去されました。
在りし日を偲び、謹んで哀悼の意を表します。
三上先生には、設立当初から、地域がん登録の精度向上のための取り組みを牽引して頂き、がん登録の発展・当協議会の活動の推進に多大なる尽力を頂きました。
また当協議会理事として日頃より事務局の運営についてご協力をいただいておりました。
ご遺志を受け継ぎ、今後とも活動に邁進してまいります。

NEWS LETTER No.53 編集後記

片山編集委員

今号よりNLのデザインが変わりました。デザイナーの北村薫さん！今後ともよろしくお願いします。
今号は三上先生の追悼号でもあります。
三上春夫先生といえば当時から千葉県、神奈川県、東京都の地域がん登録の首都圏ハブの構想をお持ちで、精力的にがん登録の整備や利活用を牽引され現在の全国がん登録の礎を築かれた重鎮でした。本追悼号の編集に携わることができ改めて感謝申し上げると共に、心からご冥福をお祈りします。

森島編集委員

今号から編集委員になりました。今号は誌面の刷新という節目でもありました。時を同じくして面白くなくなった、森島が関わり始めたからでは？と後世で言われることがないように私なりにがんばります。

私たちは日本がん登録協議会を支援しています

がん登録の充実と支援を願い当協議会の活動に賛同、ご支援頂いている賛助会員（団体・個人）の皆様です。

■賛助会員（30団体）

（公社）日本医師会、東京海上日動あんしん生命保険（株）、東京海上日動火災保険（株）【4口】，アフラック生命保険（株）【3口】，（公社）日本歯科医師会、（株）ヤクルト本社、味の素（株）、（株）レナテック、久光製薬（株）、富士フイルムメディカル（株）、三井住友海上あいおい生命保険（株）、（一社）全日本コーヒー協会【2口】，（公財）日本対がん協会、アストラゼネカ（株）、富士レビオ（株）、伏見製薬（株）、大鵬薬品工業（株）、中外製薬（株）、第一三共（株）、ノバルティスファーマ（株）、サイニクス（株）、マニュライフ生命保険（株）、日本生命保険相互会社、MSD（株）、（株）キャンサースキャン、メルクバイオファーマ（株）、ファイザー（株）、武田薬品工業（株）、（一社）群馬県病院協会、日医工（株）【1口】

■個人賛助会員（5名）

私たちの活動にご協力ください

賛助会員

賛助会員（個人・団体）を随時募集しています

個人 / 年間　5,000円

団体1口 / 年間 50,000円
（1口以上）

寄附金も受け付けています。
https://syncable.biz/associate/jacr199212/donate

入会のお申し込み、寄附金のお問い合わせは弊会ウェブサイトの「お問い合わせ」よりお気軽にお問い合わせください。

http://www.jacr.info/

主な事業内容

- がん登録に関する学術集会、セミナー等の開催
- がん登録に関する様々な情報の提供
- がん統計、がん登録に関する調査や研究の実施
- 国際がん登録協議会（IACR）への参加・協力
- がん登録に携わる人材の育成やサポート
- がん登録室の安全管理措置に関する活動
- がん登録の広報媒体、冊子、教材、資料等の発行

NEWS LETTER

No.53
September. 2022

認定特定非営利活動法人
日本がん登録協議会
JACR Japanese Association of Cancer Registries

日本がん登録協議会事務局　理事長　猿木信裕
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-19-18 第三東栄ビル503
TEL：03-3547-5992　FAX：03-3547-5993
E-mail：office@jacr.info　URL：http://www.jacr.info/